

## ベトナム現地情報（2020.7.17）

ジャパン証券 津上 翔二

### 第1回 マサングループのビンマート買収後について

7月16日木曜日にハノイ取引所に上場しているネット洗剤（NET）が決算を発表した。上半期の売上が36.2%増、純利益は111.4%増の大幅な増収増益となり市場を驚かせた。実はこのNETという会社は今年の2月にマサングループが買収をした同社の子会社である。増収増益のからくりは単純で、マサングループが同様に買収をしたビンマート(スーパーやコンビニ)においてNETの製品を販促したからであろう。

マサングループはビンマート事業の黒字化を急いでいる。マサングループ全体の第1四半期決算はビンマート事業の損失によって2014年第2四半期以来の赤字に転落をした。年内のビンマート事業黒字化のために動きを見せている。今までのビンマートは営利目的だけでなく、顧客の利便性や広告の意味も含めて店舗を拡大してきたと思われる。しかし、マサングループの買収後は利益を生み出すべく、商品売り場の配置の改革や不採算店舗の閉店などにも踏み出している。(写真1)



写真1：既に閉店したビンマートプラス(ホーチミン市)

マサングループ自体の不採算事業もビンマートを利用してテコ入れを図る。ビール事業は赤字が続く重荷となっていたが、最近になってビンマートで大々的なプロモーションを打ち出している。(写真2) また、現在力を入れている豚肉の販売事業では、コンビニのビンマートプラスでも販売を始めており販路を広げている。赤字であるビンマートの買収には疑問の声も多かったが、ベトナムで生活しているとマサングループとしては最大限活用しようとしている様子が見て取れる。ビンマート事業の黒字化は思っているよりも早いかもしれない。



写真2：山積みされたビールケース、ビールの名前にちなんだ宝石のルビーが当たるようだ

## ディスクレーマー

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。